

# 手をつなぐボランティア

災害時の効果的なボランティア活動支援を目指して

## 災害ボランティアセンター 設置・運用訓練行われる — 鹿児島県総合防災訓練 —

大隅半島東方沖を震源とする強い地震並びに豪雨による災害を想定した鹿児島県総合防災訓練が五月十八日(金)、鹿屋市の串良川河川敷及び田崎多目的運動広場にて行われました。

この訓練は県の主催で毎年行われており、今年の訓練は計五十七の関係機関・団体がそれぞれの立場での訓練を実施しましたが、県・鹿屋市社会福祉協議会は共催で、災害時のボランティア活動を迅速かつ効果的に支援できるように「災害ボランティアセンター設置・運用訓練」を行いました。

### ◆はじめに◆

今回の災害ボランティアセンター設置・運用訓練に



は、県・鹿屋市社会福祉協議会をはじめ、近隣市町村社会福祉協議会、民生委員・児童委員、各種ボランティア団体等、計七十五名の方が参加しました。

訓練開始式にて、鹿屋市社会福祉協議会山下求会長が「災害はいつ発生するかかわからない。災害時のボランティア活動は今注目されており、その活動を的確に支えることができるよう真剣に訓練してほしい。」と挨拶され、訓練がスタートしました。

### ◆訓練内容◆

訓練は、参加者がそれぞれ「災害ボランティアセンタースタッフ」「仮想ボランティア」「仮想被災者」の役割に分かれ、2回行いました。



災害ボランティアセンターでは、それぞれの係がセンターに訪れた仮想ボランティアに対し、ボランティアの登録・ボランティア活動保険加入手続き・マッチング・オリエンテーション・送り返しまでの一連の手続きを行い、また、仮想被災者に対し、ボランティアニーズの聞き取りを行う運用訓練を行いました。

ボランティアセンターの各係は、多数のボランティアや

### ◆終わりに◆

被災者が同時にセンターに訪れたことで、はじめは手続きに戸惑った様子でしたが、被災者のニーズに合ったボランティアの派遣ができるよう懸命に訓練に臨んでいました。

昨年七月の県北部豪雨災害時に多くのボランティアが活躍したこともあり、その教訓を生かし、ボランティアと被災者をより迅速かつ効果的につなぐことができる災害ボランティアセンターとなるよう、参加者それぞれが高い意識を持った中での有意義な訓練となりました。



### 災害ボランティアセンター運用図

